



国際医療ボランティア「AMDA」ボランティアセンターとの交流



高梁学園ボランティアセンターは4月20日、国際医療ボランティア「AMDA」と連携するアスカグループの施設周辺(岡山市櫛津)で開かれた「あすか健康村フェスティバル」に参加しました。

「AMDA」ボランティアセンターとの交流活動の一環で、当センターからは学生スタッフら約10人が参加。早朝から岡山市内に出向き、パネル展示などを中心としたテントを出展しました。

そのほかにも、子どもを対象としたアイロンビーズや飛行機クラフトなどの手作り遊び教室、魚釣りゲームコーナーなどを設け、訪れた約1,000人の地元住民や親子連れの方々に喜んでいただき、交流を深めました。

今回は地域とふれあう活動が主でしたが、今後は「AMDA」ボランティアセンターと連携しあい、国際貢献に関係するボランティア活動にも積極的に結びつけることができれば、と考えています。

中国・四川省大地震の被災者救援募金

高梁学園ボランティアセンターでは、5月12日に発生した中国・四川大地震の被災者救援のため、5月下旬より募金のお願いをして参りました。

約2か月の間、学内外の各所に設置した募金箱や、街頭募金活動などご協力を呼びかけた結果、地域の方々や学生、教職員らから合計金額425,000円(うち九州キャンパス54,000円)もの募金を集めることができました。

吉備国際大学では多くの中国人留学生を受け入れています。幸い四川省出身の留学生はいませんが、彼らも本国の惨状に心を痛め、積極的に募金活動に参加してくれました。6月4日には、JR備中高梁駅前で、ボランティアセンター学生スタッフと高梁学園留学生会に所属する中国人留学生ら



約20人が参加して、街頭募金活動を実施しています。

寄せられた募金につきましては、国際医療ボランティアグループ「AMDA」(岡山市)と日本赤十字社宮崎県支部延岡市地区(延岡市)を通じて、現在も避難生活を送る中国の被災者の皆さんのため、救援物資購入や救援活動の資金に充てさせていただきます。皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。



留学生による感謝のコメント

吉備国際大学院 社会学研究科
2年 林 則臣

今年5月に中国・四川省で大地震が発生しました。この大地震により、大勢の人々が被災しました。

私たちは、被災者の方々のために少しでも貢献したいと考え、留学生の中から有志を募り、高梁学園ボランティアセンターのスタッフの方々と共に、学内外で募金活動を行いました。大学内に募金箱を設置し、毎朝、授業の前の時間を利用して、募金活動も行いました。また、駅前やスーパーマーケットで街頭募金活動にも参加しました。

同時に、テレビの報道などを通じ、日本の多くの方々や、苦しんでいる中国の被災者に対する温かい援助の手を差し伸べてくださっていることを知りました。全国のコンビニエンスストアなどに地震のための募金箱が設置され、老若男女さまざまな方々が募金をしてくださっていると聞きました。多くの日本の方々や心から中国の被災者を心配してくださっている。私はその気持ちにとっても感動しました。

日本と中国は、国も民族も違います。しかし、何かあれば国籍や民族に関係なく助けあう「国境を超えた博愛精神」を持つことの大切さを、実感しました。

今回の中国・四川省大地震の復興に力を貸してくださった多くの日本の方々や感謝すると共に、中日両国の友情が更に強くなることを心から願っています。